

2023年度 世界史Aシラバス

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	担当者	新垣 健一
単位数	2単位 (70時間)				
学年	第3学年				
使用教科書, 副教材等	東京書籍「世界史A」(世A 301)				

1 学習の到達目標

- ① 近現代史を中心とする世界の歴史について理解します。
- ② 諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、現代の諸課題を歴史的観点から考察します。
- ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。

2 学習の計画

	単元名	学習項目	学習内容	留意点・備考
4月	世界史へのいざない	テーマ1 自然環境と歴史	○地図, 写真, 雨温図などから自然環境の特質を読み取り, 「河川・海洋」, 「森林・草原・オアシス」などの景観と歴史との関わりについて考えます。 ○日本の歴史が世界の歴史とどのように関わっていたのか, 「人・モノの移動」, 「宗教の伝来」および「食べもの・技術の移転」の3つの例を参考にしていくつかのテーマを取り上げ, 年表に整理したり地図で表したりしながら考えます。	○中学校社会科の地理的分野で学習した範囲を超えないように留意します。 ○中学校社会科の歴史的分野で学習した内容を確認しながら, 世界史の中に日本の歴史を位置づけて捉えることができるように工夫します。
		テーマ2 日本列島の歴史にみる、世界とのつながり		
5月	第1部 第1章 ユーラシアの諸地域世界	1 東アジア世界 ①東アジア世界と中国文化 ②中華世界の統一 ③東アジア世界の形成 ④東アジア世界の展開	○中国, 朝鮮半島, 日本列島などの東アジア世界について, その歴史の中で培われた社会・文化の特質を理解します。特に漢字文化, 儒教, 中国を中心とする国際体制などに注目します。	○日本の歴史を, 東アジア史の中に位置づけて考察させます。 ○近現代史を理解するための前提として位置づけ, 諸地域世界の特質を大きく捉えられるようにします。
		2 東南アジア世界 3 南アジア世界 ①南アジア世界とインド文化 ②インド古典文化の成立 ③ヒンドゥー教の成立とインドのイスラーム王朝	○東南アジア世界が, インド文化や中国文化の影響を受けながら, 多様な社会・文化を築いたことを理解します。 ○インドを中心とする南アジア世界について, さまざまな宗教や言語など文化の多様性がこの地域世界の歴史的特質であることを理解します。特に仏教とヒンドゥー教, カースト制度, イスラームの影響などに注目します。	○宗教については, 「現代社会」や「倫理」の学習内容との関連に留意します。
		4 西アジア世界 ①西アジアの風土と諸民族 ②古代オリエントの統一とイスラーム世界の成立 ③イスラーム世界の発展 5 ヨーロッパ世界 ①古代地中海世界 ②東西ヨーロッパ世界の成立 ③西ヨーロッパ封建社会	○西アジア世界について, 古代オリエントの様々な民族が残した遺産, イスラームの成立とその拡大によって成立したイスラーム世界の特質を理解します。また, イスラーム文明がヨーロッパに与えた影響について考察します。 ○古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教を基盤に形成されたヨーロッパ世界の展開を理解します。東西ヨーロッパ世界がそれぞれ特色ある地域世界として形成されたことを理解します。西ヨーロッパ中世世界がどのように展開したのか考察します。	

		④西ヨーロッパ世界の変容		
6月	第2章 ユーラシアの交流圏	1 8世紀ごろの世界と交流 2 13世紀ごろの世界と交流	○8世紀ごろのユーラシア世界における陸と海のネットワークが、各地域世界にどのような影響を与えていたのか考察します。 ○13世紀のユーラシア世界ネットワークにおけるモンゴル帝国成立の意義について考察します。	○ネットワークによる各地域世界のつながりが具体的に捉えられるような事例を、いくつか取り上げます。
	第2部 第3章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ	1 中華帝国の繁栄と東アジア ①明の繁栄と東アジア ②清の繁栄と東アジア ③東アジア周辺諸国の動向 2 15～17世紀の東南アジア	○明・清帝国の繁栄を中心に、琉球、朝鮮半島、日本など東アジア諸地域の動向を理解します。特に銀の流通や東南アジア方面への移民（華僑・華人）に注目し、世界経済のつながりについて考察します。 ○東南アジア諸地域の動向を、中国、イスラーム、ヨーロッパなどの進出とともに理解します。	○「世界史B」で扱う場合と異なることに留意し、内容が過密にならないよう、基本的なもの、本質的なものを精選し、重点化して取り上げるようにします。
		3 西アジア南アジア ①ティムール朝とムガル帝国 ②オスマン帝国とサファヴィー朝 4 16世紀のヨーロッパ ①ヨーロッパにおける近代社会の胎動 ②大航海時代 5 ヨーロッパの主権国家体制の成立と世界商業の進展 ①絶対王政と重商主義 ②世界商業と主権国家体制	○ムガル帝国やオスマン帝国などが安定した支配と経済の繁栄を背景に黄金時代を迎えていたことを理解します。また、ティムール朝やサファヴィー朝などその他のイスラーム世界の動向についても理解します。 ○ルネサンスや宗教改革などの動きについて整理し、ヨーロッパの海外進出との関連性について考察します。16世紀における世界の一体化の動きを理解します。 ○ヨーロッパに成立した主権国家体制の特色、世界商業の進展と大西洋貿易の動向について理解します。18世紀における大西洋三角貿易の歴史的意義について考察します。	○ムガル帝国では宗教政策転換の影響について、オスマン帝国ではヨーロッパとの関わりについて、考察させます。 ○アメリカ大陸の植民地化がヨーロッパに与えた影響については、商業革命や価格革命だけでなく、食生活への影響の重要性にも注目させます。
7月	第4章 大西洋世界の変容とその波及	1 ヨーロッパとアメリカの諸革命 ①革命の時代の開幕 ②アメリカ独立革命 ③フランス革命 ④ナポレオン戦争	○アメリカ独立革命と、フランス革命からナポレオン戦争にいたる過程について、革命の背景となった啓蒙思想の内容も含めて理解します。また、市民革命の歴史的意義について考察します。	○市民革命や産業革命については、中学校社会科や高等学校公民科の学習内容との関連に留意します。 ○ナポレオンの歴史的役割や産業革命の意義など、討論やロールプレイなどの学習活動を通して歴史的思考力を培うことができます。
9月		2 産業革命と世界市場の形成 ①産業革命 ②産業化の開始と社会	○イギリスで産業革命がおきた要因について考察します。産業革命の結果、資本主義が確立して資本家が成長するとともに、社会問題や労働問題が発生したことについて考察します。また、貿易活動の拡大にともない、世界の一体化が進んでいった様子について考察します。	
		3 ヨーロッパの動乱の波及 ①ラテンアメリカ諸国の独立 ②オスマン帝国の動揺 ③インド洋から東アジアへ ④広がる植民地と世界	○ヨーロッパの動乱が大西洋世界を変動させ、ラテンアメリカ諸国の独立を引き起こしたことについて理解します。また、ヨーロッパの動乱は、大西洋世界だけでなく、インド洋から日本近海にいたる諸地域にも波及したことについて考察します。	○ヨーロッパにおける市民革命や産業革命がどのように影響したのか、世界のつながりがわかるように地図で示します。

	第5章 産業化 社会の 拡大と 成熟	1 ウィーン体制とその崩壊 ①ウィーン体制 ②ウィーン体制の動揺 ③1848年革命 2 国民国家への道 ①西ヨーロッパ ②アメリカ合衆国の発展と南北戦争 ③イタリア、ドイツの統一と東ヨーロッパ	○19世紀前半のヨーロッパでウィーン体制が動揺・崩壊していく過程について、各国における自由主義とナショナリズムの展開を軸に理解します。 ○19世紀後半のイギリスとフランスにおける内政・外交について理解します。 ○19世紀アメリカにおける西部開拓の進展と南北戦争による社会の変化について、様々な視点から考察します。 ○イタリアとドイツの国民国家形成過程について理解します。	○教科書掲載の絵画資料を分析することにより、19世紀のヨーロッパやアメリカにおける社会の変化について考察させることができます。 ○南北戦争やイタリア・ドイツの統一運動については、様々な立場の違いに注目させて考察させます。
10月		④東方問題とロシア ⑤成熟する産業社会	○バルカン半島を舞台にロシアと他の列強諸国とが対立していた状況について理解します。 ○19世紀におけるヨーロッパ社会の変容について考察します。	○後に学習する第一次世界大戦前の国際関係につながるように留意します。
	第6章 アジア 諸国の 変貌と 日本	1 東アジアの変容 ①清帝国と周縁地域 ②反乱と改革 ③清と欧米のあいだに立つ日本・琉球・朝鮮 2 東南アジアの変容 3 南アジアの変容 ①ムガル帝国とインド亜大陸 ②インド大反乱 4 西アジア、アフリカの変容	○ヨーロッパの進出が中国社会に与えた影響、清朝に対する抵抗運動、清の改革運動などについて理解し、日清戦争をめぐる東アジアの動きについて世界史的な視野から考察します。 ○ヨーロッパの進出による東南アジア諸国の植民地化や従属化の過程について理解します。 ○ヨーロッパの進出によるインドの植民地化の過程、それに伴う社会の変容、抵抗運動について理解します。 ○オスマン帝国の衰退とヨーロッパの進出による西アジア・アフリカの社会の変容、植民地化への抵抗運動、民族意識の形成などについて考察します。	○当時の日本の外交を、東アジア史や世界史の中に位置づけて考察させます。 ○アジア・アフリカの民族運動や改革運動については、ヨーロッパの進出に対する受動的な対応だけでなく、社会変革への主体的な動きにも着目させます。
	第3部 第7章 帝国と 民族の 時代	1 急変する人類社会 ①第二次産業革命と世界の人口移動 ②科学技術の発展と社会生活	○19世紀末から20世紀初頭の社会の変化を概観し、移民などの人口移動や科学技術の発達等が人類社会にどのような影響を与えたのか考察します。	○新聞や写真など、社会の変化を具体的に捉えられる資料を活用します。
11月		2 植民地の拡大と深まる国家の対立 ①帝国主義、アフリカ分割 ②ヨーロッパ諸国のあらたな帝国形成 ③ロシアとアメリカの領土拡大 3 アジア、アフリカの抵抗運動 ①東アジアの勢力分割と抵抗運動 ②東南アジア、南アジアの民族運動 ③西アジア、アフリカの民族運動	○ヨーロッパにおこった国民国家形成の動きが中央集権的な国家権力強化の方向に進んでいき、帝国主義に発展したことを理解します。帝国主義列強諸国（イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、アメリカ）がどのように勢力を拡大していったのか理解します。 ○帝国主義の動きに対してアジア、アフリカの各地でおきた様々な民族運動について理解します。また、これらの民族運動において、植民地や半植民地の状態からの自立や独立をめざしてどのような政策が掲げられたのか、考察します。	○第二次産業革命の進行にともなって、商品市場や原料供給地としてだけでなく、投資先としても植民地を確保する必要性が高まっていた状況についても気付かせます。 ○民族運動の対象として、帝国主義への反発と、旧体制の変革の両者に注目させます。

	第8章 二つの 世界大 戦の時 代	1 第一次世界大戦 ①第一次世界大戦前夜のヨーロッパ ②戦争の勃発と性格 ③戦争から革命へ 2 戦後秩序の形成 ①ヴェルサイユ体制 ②新しい勢力 ③抵抗するアジア ④高まる中東の民族運動 3 世界恐慌とファシズム ①世界恐慌 ②ファシズムの台頭 ③深まる世界の危機	○20世紀初頭のヨーロッパの国際関係を理解し、第一次世界大戦の背景について考察します。 ○第一次世界大戦の経過について理解し、その総力戦としての性格について考察します。 ○戦争が終結にいたる状況とロシア革命について理解します。 ○ヴェルサイユ体制の特質と、第一次世界大戦後のソ連とアメリカについて理解します。 ○ワシントン体制の特質と、第一次世界大戦後の中国、朝鮮、インド、東南アジアにおける民族運動について考察します。 ○トルコ革命、パレスティナ問題、石油をめぐる利害関係など、第一次世界大戦後の西アジアやアフリカについて考察します。 ○世界恐慌が戦間期前半の国際秩序に危機をもたらし、ファシズムの台頭によって新たな国際対立が生み出されたことについて考察します。	○第一次世界大戦の開始から第二次世界大戦終結までの世界史の大きな流れがつかめるように工夫します。 ○総力戦としての特徴については、戦中や戦後の人々の生活にどのような影響を与えたのかいくつかの事例を取り上げて考察させ、具体的に理解できるように工夫します。 ○ヴェルサイユ体制やワシントン体制の成果と問題点について、その後の第二次世界大戦にいたる動きをふまえて分析させます。 ○1929年を境に戦間期前半と後半とを比較し、社会がどのように変化したか、教科書 p.158 や p.160 のグラフを分析させた上で考えさせます。
12月				
1月		4 第二次世界大戦 ①世界戦争への展開 ②占領と抵抗 ③戦争の終結と戦後世界の胎動	○ヨーロッパにおける大戦の展開と太平洋戦争の始まりについて理解します。 ○日本やドイツの占領地における抵抗運動について理解します。 ○大戦が終結に向かう経過について理解し、戦後世界に及ぼした影響について考察します。	
	第9章 冷戦と 民族独 立の時 代	1 戦後世界の形成 ①連合国の戦後処理と世界 ②国際連合と戦後のアメリカ ③対立する東西陣営 4 冷戦の終結	○冷戦体制の成立と戦後のアジアにおける民族独立の動きについて理解します。 ○国際連合成立の意義について考察し、戦後のアメリカを中心とした西側諸国の同盟網の成立について理解します。 ○東西両陣営の内部が次第に変化していったことを理解します。 ○東欧において社会主義体制が崩壊した背景と、崩壊後の社会について考察します。	○「核の時代」が始まったことについて考えさせます。核兵器の脅威だけでなく原子力発電にもふれ、原子力エネルギーの利用全般について考察させます。
	第10章 グロー バル化 のなか の危機	1 グローバル化と諸地域の模索 ①グローバル化と地域統合 ②アジアの変容と中国、インドの台頭 ③動揺する中東と世界の地域紛争	○冷戦終結後の経済のグローバル化と地域統合の動きについて考察します。 ○冷戦終結後のアジアが世界経済への影響力を強めている状況を理解します。 ○中東やアフリカの現状の課題について、世界史的な背景もふまえて考察します。 ○冷戦終結後の国際秩序の変化について理解し、世界の人々が多様性を認	○グローバル化の進展に伴う社会の変化について整理させ、様々な課題に対応するために何が必要か、世界史的な視野から検討させます。 ○「地理A」、「地理B」、「現代社会」および「政治・経済」の学習内容との関連に留意します。
2月		2 現代の戦争と平和		

			め合いつつ共生していく方向性等について考察します。	
終章 21世紀に生きる	1 歴史をみる眼, 世界をみる眼		○冷戦終結後の世界でおこった地域紛争の歴史的背景について追究し, 平和に関する理念等も振り返りながら, これからの国際社会の課題について考察します。 ○科学技術の発展の人類への寄与と課題について追究し, 環境問題などの現代世界の諸課題について歴史的視野から考察します。	○調査や議論など生徒の主体的な学習を通して, 現代世界史の諸課題について探究させます。教科書 p.209 と p.211 の例を参考にしてください。
	2 現代世界史の課題			

4 評価・評定について

(1) 評価の観点

関心・意欲・態度	○ 近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め, 歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追究しているか。 ○ 歴史上の諸課題について追究してきたことを通して, 国際社会の一員として現代の諸課題に主体的に関わろうとする態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	○ 近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし, 世界史的視野に立って多面的・多角的に考察しているか。 ○ その諸課題について, 地理的条件や日本の歴史と関連付けながら, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。 ○ その諸課題について歴史的観点から考察したり判断したりした過程や結論を, 様々な方法で適切に表現しているか。
資料活用の技能	○ 近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し, 有用な情報を適切に選択することができるか。 ○ 資料や情報を効果的に活用することを通して歴史的事象について追究する学び方を身に付けているか。
知識・理解	○ 近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。 ○ 近現代史を中心とする世界の歴史について, 地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか。

(2) 評価の対象と方法

- ア 定期テストでは, 出題範囲に関する「知識・理解」の状況の評価するとともに, 論述問題等を通して「思考・判断・表現」の状況の評価します。
- イ 夏休みや冬休みの課題も含めたレポート学習では, 提出課題の中に調査した内容だけでなく考察したことや課題を通して振り返ったことも含めるよう生徒に指示し, 「関心・意欲・態度」, 「思考・判断・表現」および「資料活用の技能」の状況の評価します。
- ウ グループ学習, 発表, 討論等では, その様子を記録しておくとともに, 事後課題として学習活動を通して考察したことや自己評価したことをまとめさせます。これらの材料をもとに「関心・意欲・態度」, 「思考・判断・表現」および「資料活用の技能」の状況の評価します。

(3) 評定について

- ア 年度当初に4観点それぞれの評価基準および評価(点数)の割合を定めておきます。
- イ あらかじめ設定した4観点ごとに評価(点数)を総合して5段階評定をだします。